

設問別調査結果 [小学校国語A:主として知識]

分類・区別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1		68.0
	書くこと	4		85.4
	読むこと	2		68.7
	言語事項	12		64.2
問題形式	選択式	5		80.1
	短答式	12		65.9
	記述式	1		68.0

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			問題形式			札幌市		全国(公立)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと 言語事項	選択式	短答式	記述式	全国との比較	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1-(1)	漢字を読む(駅は混雑している)									1.9	95.2	2.2
1-(2)	漢字を読む(春から夏へ季節が移る)	学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読む								2.1	91.1	1.7
1-(3)	漢字を読む(めずらしい植物を採集する)									2.4	80.0	2.7
1二(1)	漢字を書く(びょういんに行く)									9.0	76.1	5.9
1二(2)	漢字を書く(人の意見にさんせいする)	学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書く								16.8	78.3	8.7
1二(3)	漢字を書く(重い石をはこぶ)									14.1	80.6	10.1
2_1	ローマ字で書く(くすり)	ひらがなで表記されたものをローマ字で書く								12.7	69.4	11.8
2_2	ローマ字で書く(たべもの)									20.0	45.5	19.2
2_3	ローマ字を読む(happa)	ローマ字で表記されたものを正しく読む								29.7	51.9	29.3
3	はがきの表書きに必要な事柄を選択する	はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて書く								0.5	67.0	0.3
4ア	実験報告文の小見出しとして適切なものを選択する	文章の内容に合わせて、小見出しを書く								0.9	86.1	0.8
4イ										1.0	94.7	0.8
4ウ										1.0	93.9	0.9
5	文章の表現の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	文学的な文章の表現の工夫をとらえる								0.9	58.7	0.7
6	図鑑を読んで必要な内容をとらえる	段落の内容を的確にとらえる								5.3	78.7	4.9
7	司会の進め方の良いところを説明する	司会の役割や動きをとらえて、話し合いを計画的に進める								15.9	68.0	15.2
8	接続語を使って一文を二文に分けて書く	文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く								32.6	14.7	30.2
9	毛筆の下書きについて書き直す内容を書く	文字の大きさや配列に注意して書く								35.2	29.0	33.3

表中の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。
 … + 3.1ポイント以上
 … + 0.1ポイント~3.0ポイント
 … ほぼ同程度
 … - 0.1ポイント~ - 3.0ポイント
 … - 3.1ポイント以下

【設問分析】

1 漢字の読み書き

①は、学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみるための設問である。設問一では漢字を読むことについて、設問二では漢字を書くことについて、それぞれ3問ずつで構成されている。

【設問一】漢字を読むこと

- (1) 5年生の配当漢字である「混雑」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- (2) 5年生の配当漢字である「移る」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。
- (3) 5年生の配当漢字である「採」と3年生の配当漢字である「集」の熟語「採集」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】漢字を書くこと

- (1) いずれも3年生の配当漢字である「病」と「院」の熟語「びょういん」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。
- (2) 5年生の配当漢字である「賛」と4年生の配当漢字である「成」の熟語「さんせい」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。
- (3) 3年生の配当漢字である「運ぶ」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。

言語事項における「漢字を読むこと」については、全国の平均正答率と比較すると、三問中一問がやや下回っている。今後も漢字の読みについて確実な定着が求められる。

「漢字を書くこと」については、全ての設問において、全国の平均正答率を下回っている。これまでの札幌市の独自調査及び昨年度調査においても、「漢字を書くこと」について、課題が見られており、今後とも、繰り返しの学習はもちろんのこと、普段の学習や生活の中で定着を図る指導を一層工夫していくことが重要である。誤答には、「病院」の「病」、「賛成」の「賛」を書いていないものや点画が足りないものがあり、点画の数やとめ、はね、はらいなど、まちがえやすいところを特に注意し、正確に書けるような指導が求められる。

2 ローマ字を読んだり書いたりする

②は、ローマ字で表記されたものを正しく読んだり、ローマ字で書いたりすることができるかどうかをみる設問であり、日常使われている単語の中から、書き2問、読み1問で構成されている。

- 1 清音を組み合わせた単語「くすり」をローマ字で書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- 2 濁音を含む単語「たべもの」をローマ字で書く設問では、全国の平均正答率を上回っている。
- 3 促音を含む単語「happa」の読みを書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

ローマ字の読み書きについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているか上回っているが、清音を組み合わせた単語の書きに比べて、濁音を含む単語の書きと促音を含む単語の読みの正答率は全国同様低くなっている。また、全国同様に無回答率が高く、ローマ字の読み書きに課題があることがわかる。誤答には、アルファベットと混同したり、鏡文字にして書いたりするなどがあり、ローマ字表記について正しく理解していない児童がいることがわかる結果となっている。

今後の指導に当たっては、濁音、半濁音、長音、拗音、促音、撥音などの規則性を押さえるとともに、ローマ字を使ったクイズやしりとりなどの言語活動を取り入れ、ローマ字に親しませるなど、中学年での学習を充実させるとともに、その後も他教科等でコンピュータを使う学習を設定し、ローマ字入力させることで繰り返しローマ字を使う機会を増やしていくことが重要である。

3 はがきを書く

③は、はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて書くことができるかどうかをみるための設問であ

り、はがきの表書きに必要な事柄を正しい順序で選択するものである。

- ・この設問では、全国の平均正答率を下回っている。

選択肢は、相手の住所と相手の名前、自分の住所と自分の名前を取り上げているが、誤答の中には、相手の住所と相手の名前は正しい順序にしているものの、自分の住所と自分の名前を反対にしているものがある。はがきの表には、相手の住所と名前、自分の住所と名前を正しい形式や順序で書く必要がある。また、用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などに注意して書くことも大切である。親しい知人やお世話になった人に近況報告をするなど、相手や目的に応じて、実際にはがきや手紙を書く場面を設けるなどの指導を、一層充実していくことが必要である。

4 実施報告文を書く

[4]は、文章の内容に合わせて、小見出しを書くことができるかどうかを見るための設問であり、実験報告文の内容に適した小見出しを選択するものである。

- 1 小見出し「方法」を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。
- 2 小見出し「予想」を選択する設問では、全国の平均正答率をやや上回っている。
- 3 小見出し「結果」を選択する設問では、全国の平均正答率をやや上回っている。

文章全体の構成をとらえ、各項目に記述された内容を理解して、適切な小見出しを選択することは相当数の児童ができていくことができる。報告文に小見出しを書くためには、報告文の文章全体の構成を理解し、各項目の内容を簡潔にまとめる指導が必要である。経験したことを記録や報告書にまとめる言語活動を通し、読み手に文章全体の構成を効果的に伝えるための項立てを考え、内容を要約して箇条書きで書く指導を充実していくことが必要である。

5 表現の工夫をとらえる

[5]は、文学的な文章の表現の工夫をとらえることができるかどうかをみるための設問であり、主人公の行動や心情を描写した文章を読み、表現の工夫として適切なものを選択するものである。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較すると、やや下回っている。

文学的な文章を読み、表現の工夫をとらえることについては、全国の平均正答率と比較してやや下回っている。また、全国の平均正答率も低い状況にあり、課題がある。表現の工夫に気付かなかつたり、主人公が自分自身に語りかけた表現を他の登場人物に語りかけたのとらえたりすることによる誤答が見られる。優れた叙述を味わいながら読み、その表現方法にどのような効果があるのかなどについて話し合ったり、「読むこと」の指導と「書くこと」の指導とを関連付けて自分の表現に活用したりする指導が重要である。

6 段落の内容をとらえる

[6]は、語句や文に着目して段落の内容を的確にとらえることができるかどうかをみるための設問である。説明的な文章の一部を読み、内容をとらえてメモに整理するという目的に応じて、中心となる語や文を要約して書くものである。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較すると、やや下回っている。

語句や文に着目して段落の内容を的確にとらえることについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。誤答には、文章の一部を取り出しただけで、前後と文脈が整っていないものや不完全な内容のものがある。

児童が目的意識をもって内容の中心や書き手の考えを読み取ることができるような言語活動を設定し、くりかえされている語句や文に着目して中心となる語や文をとらえたり、文や段落相互の関係をとらえたりして要約することができるような指導が必要である。

7 話し合いを計画的に進める

〔7〕は、司会の役割や働きをとらえて目的や課題に即して、資料から分かったことをメモに取ることができるかどうかをみるための設問である。司会者の発言を通して、話し合いの進め方の良いところを評価し、説明する問題である。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における「司会の役割や働きをとらえて、話し合いを計画的に進めること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが、無回答率は15%程度とやや高く、全国平均を上回っている。誤答には、話し合いに参加する立場に立って書いているものや、話し合いとして全体を評価しているものがある。今後は、話し合いにおいて、司会の役割を明確にし、話し合いの様々な場面に応じて内容を整理した上で、議論を収束させたり、新しい方向へ展開させたりすることができるよう、適切なモデルを示しながら、司会者を立てた小集団の話し合い活動を取り入れるなどの指導を充実していく必要がある。

8 一文を二文に分ける

〔8〕は、文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができるかどうかをみるための設問である。二つの内容が含まれている一文を読み、接続語を使って二つの文に書く問題である。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「書くこと」領域における「文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うこと」については、全国の平均正答率と比較すると、やや上回っているものの、正答率は低く、無回答率も高い。文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題がある。文や文章の構成については、学年の段階に応じた指導が大切である。特に、高学年においては、単文、重文、複文などの構造で書かれた文の内容を論理的に関係付けた上で、一文を接続語を使って複数の文に分けたり、内容のまとまりを箇条書きにしたりするなど言語を操作する指導が大切である。「書くこと」の学習において、自分の考えが的確に伝わるようにより良い表現に書き直したりするための推敲の指導と関連付けながら、様々な機会をとらえ継続的に指導していくことが重要である。

9 毛筆で書く

〔9〕は、文字の大きさや配列に注意して書くことができるかどうかをみるための設問である。文字の大きさや配列に注意して下書きを見直し、書き直す部分とその理由を指摘する問題である。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

全国の正答率29.2%をやや下回っている。文字を行の中心に合わせることの理解に課題がある。読み手への伝達効果を考え読みやすく文字を書くためには、今年目標を毛筆で書いたり、案内状などを出すための封筒に宛名や住所を書くなどの言語活動を通し、漢字と平仮名の大きさのバランス、書き出しの位置、始筆の位置、行の中心と文字の中心、字間や行間などについて正しく理解できるように指導するとともに、各教科等の学習において、書写で学習したことを生かし、文字を正しく整えて書く学習活動を充実していく必要がある。

設問別調査結果 [小学校国語B:主として活用]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	5		61.3
	書くこと	2		14.5
	読むこと	3		56.5
	言語事項	2		59.7
問題形式	選択式	2		65.8
	短答式	2		48.7
	記述式	6		46.0

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			問題形式			札幌市		全国(公立)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	全国との比較	無解答率(%)	正答率(%)
表中の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。 … + 3.1ポイント以上 … + 0.1ポイント～3.0ポイント … ほぼ同程度 … - 0.1ポイント～-3.0ポイント … - 3.1ポイント以下												
1ー	報告文を読み、メモの中に調べた内容の1つめを書く	調べる内容を見通して、必要な事柄を整理する								22.4	11.4	20.8
1二	報告文のまとめとして、調べて分かったことを書く	目的や意図に応じて、事象や意見などを関係付けながら書く								13.6	17.7	12.6
2ー	話し合いの中で出された意見を二つの立場に分ける	話し手の立場や意図をとらえて聞く								3.6	75.5	3.0
2二	「そうじや整とんによく取り組んでいる」とする立場から自分の考えを発表する	自分の立場や意図を明確にして話し合う								12.5	25.7	11.7
3ー	説明文の冒頭部分を読んで、書き方の工夫として適切な内容を選択する	筆者の表現の工夫に着目して読む								9.8	56.1	8.8
3二(1)	筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり要約したりして書く	目的や意図に応じて、自分の考えをまとめる								12.5	62.6	11.7
3二(2)										18.0	50.9	16.4
4ー	作戦カードをもとに、ボールを渡す順番を整理する	目的や意図が伝わるように必要な情報を取り出す								8.2	86.1	6.9
4ニア	作戦カードをもとに、チームの攻め方を説明する	目的や意図が伝わるように話の組立てを工夫しながら説明する								15.0	57.3	13.4
4ニイ										18.2	62.0	15.8

【設問別分析】

1 調査報告文を書く 小学生の体力

①は、目的や意図に応じて、必要な事柄を整理し、事象や意見などを関連付けて書くことができるかどうかをみるための設問である。設問一は報告文の文章の基になった取材メモを書くものである。設問二は、全国の小学校六年生の五十メートル走の平均タイムの変化と第一小学校の六年生の平均タイムの変化とを比べて分かったことを字数などの条件に即して書くものである。

【設問一】

- ・報告文を読み、メモの中に調べた内容の一つめを書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】

- ・報告文のまとめとして、調べて分かったことを書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「書くこと」領域における「目的や意図に応じて、必要な事柄を整理し、事象や意見などを関係付けて書くこと」については、二問中一問で全国の平均正答率をやや下回っている。全国的にも正答率が低く、調べる内容を見通して、必要な事柄を整理すること、目的や意図に応じて、事実や意見などを関連付けながら書くことに課題がある。目的や意図に応じて、必要な事柄を収集、選択した上で、構成したり記述したりする指導や、記述中や記述後に事前に準備した取材メモや構成表を基に取り上げた事柄の必要性や構成の仕方などを見直す指導も大切である。自分の課題について調べ、必要な事柄を整理して調査報告文を書く授業で、互いが書き上げた文章のよさを感じ取ることが大切にしながら交流し、助言するなどの言語活動の充実が求められる。

2 表を基に話し合う 家の中の掃除や整頓

【2】は、互いの立場や意図を明確にして話し合うことができるかどうかをみるための設問である。

【設問一】

- ・話し合いの中から出された意見を整理して、話し手の立場や意図をとらえ、二つに分ける設問では全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】

- ・話し合いの流れを踏まえ、「そうじや整頓によく取り組んでいる」という自分の立場や意図を明確にして発表する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「話すこと・聞くこと」領域にかかわる「自分の立場や意図を明確にして話し合うこと」については、札幌市は、二問とも全国の平均正答率をやや下回っている。全国の平均正答率は、設問一は75.5%だが、設問二は25.7%である。立場を明確にし、数値を根拠にしながら自分の考えを述べることに課題がある。今後は、学級で討論するテーマを決め、それに対し立場を明確にしながら、図表やグラフなどの資料や、数値を根拠に話し合い、様々な意見の共通点や相違点をまとめる言語活動を取り入れた授業などを通し、話し合いを計画的に進めていく指導の充実が求められる。

3 自分の考えをまとめるために読む マナーやルール

【3】は、目的や意図に応じて、効果的な読み方を工夫し、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問である。

【設問一】説明文の冒頭を読んで表現の工夫として適切なものを選択する問題である。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】

- ・筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり要約したりしてまとめる問題では、(1)の筆者の考えを自分の言葉で書き換える問題では全国平均正答率をやや上回り、(2)の筆者の用いた言葉を文意に即して解釈し、自分の言葉でまとめる問題では全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「読むこと」領域における「目的や意図に応じて、自分の考えをまとめることができること」については、全国の平均正答率と比較して二問中一問はやや上回っており、一問はやや下回っている。また無回答率もやや高い状況にある。筆者の考えや文章の内容を的確に押さえるためには、筆者がどのような事実を取り上げ、理由や根拠を示し、感想や意見、判断や主張などを行い、読み手をどのように説得したり論証したりしているかなどを理解し解釈し、自分の考えを明確にしていく指導が必要になる。今後は、自分の考えを広げたり深めたりするために、文章全体の展開や筆者の考えをノートに整理したり、複数の本を効果的に読んだりする言語活動の充実が求められる。

4 図を使って説明する バスケットボールの作戦

【4】は、目的や意図に応じて、話の組立を工夫しながら、図を使って説明することができるかどうかをみるための設問である。

【設問一】

- ・作戦カードをもとにボールを渡す順番を整理する問題である。全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】

- ・作戦カードをもとにチームの攻め方を説明する問題では、(ア)(イ)ともに全国平均正答率をやや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域にかかわる「目的や意図が伝わるように必要な情報を取りだすこと」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが、無回答率が高い。今後は、目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する指導が重要である。第1学年及び第2学年では、行動や時間の順序などを考えながら話すこと、第3学年及び第4学年では、話の中心をはっきり決めて話すこと、第5学年及び第6学年では、事実と感想、意見との関係付け、結論や山場の位置付けを効果的に工夫する指導を重視することが求められる。

国語学習に関する意識結果 【小学校】

質問事項	選択肢			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
国語の勉強は好きですか	26.4	36.7	23.7	13.1
国語の勉強は大切だと思いますか	65	26.7	6.1	2.2
国語の授業の内容はよくわかりますか	36.4	44.5	14.9	4.1
読書は好きですか	51.3	23.6	15	10
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	50.9	34.4	10.9	3.6
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	16.7	39.3	34.6	9.3
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか	18	38.4	32.8	10.6
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか	26.7	39.1	26.7	7.3
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	32.9	39.7	21.1	6.2

（単位は％）

< 設問分析 >

「国語の勉強は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、63.1%となっており、全国平均を 3.8 ポイント上回っている。本設問については、昨年度調査において、肯定的な回答が 59.9%と、同様の傾向が見られている。今後とも、引き続き児童の興味・関心を引き出し、意欲を高める指導を工夫していくことが求められる。

「国語の勉強は大切だと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、91.7%と高くなっており、さらに、全国平均を 1.4 ポイント上回っている。今後とも、体験的な言語活動を取り入れた学習や、実生活に生きてはたらく学習を工夫することによって、国語の学習の意義や価値に気付くような授業を行うことが求められる。

「国語の授業の内容はよくわかりますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、80.9%となっており、全国平均を 0.9 ポイント上回っている。また、昨年度調査よりも 2.4 ポイント上回っている。引き続き、児童の実態に即した指導や、意欲を喚起する学習内容、基礎的基本的な指導事項の習熟とともに、個に応じた指導の充実を図ることが求められる。

「読書は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、74.9%となっており、全国平均を 3.1 ポイント上回っている。札幌市では、今年度から一斉読書の推進に取り組んでおり、今後、各学校での読書活動の取組の一層の充実が求められる。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、85.3%となっており、全国平均を 0.2 ポイント上回っている。昨年度調査と比較しても肯定的な回答が 1.7 ポイント上回っている。今後とも、国語学習の有用性を実感できる

指導を工夫していくことが大切である。

「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、56.0%となっており、全国平均と同様の結果となっている。また、「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、56.4%となっており、全国平均を 0.1 ポイント上回っている。今後とも、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導において、相手や目的に応じて、自分の考えを持ち、伝わりやすいように組み立てなどを工夫する学習活動を位置付けていくことが、求められる。

「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、65.8%となっており、全国平均を 0.4 ポイント下回っている。今後、自分の考えを持つことと同様、その根拠をはっきりもつことのできるような児童の疑問や課題を生かし、問題意識を喚起する授業を工夫することが、求められる。

「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、72.6%となっており、全国平均を 1.8 ポイント上回っている。「読むこと」の授業において、目的に応じて、事実と意見を区別したり、段落相互の関係を意識しながら読む指導の一層の充実が求められる。